

## Character and Story

自分は音楽が好きだし、一番得意分野でもあったのでなんとかなるとがむしゃらに頑張ってきました。自分の得意とする音楽で、パフォーマンスで、恩返しができたらなあと思ったんです。

### 精琴会 (せいきんかい)

代表 佐藤 幸代 さん

精琴会 (せいきんかい) 代表

大正琴の教室で指導しています。  
大正琴のメンバー やギター演奏者とコンビを組んで  
介護施設への慰問や老人会などへボランティアとして  
演奏に出向いています。  
11月22日、25年間の節目となるコンサートを桑名福祉  
センターで行ないました。



精琴会

## 佐藤さんについて教えてください

生まれは名古屋です。父は公務員で転勤が多く、小学校だけでも4つ変わっています。桑名に来るまでに12回引っ越ししています。伊勢湾台風のときに母は私をお腹に抱えながら雨戸を大人4人がかりで押さえていたと。堤防も決壊寸前だったとか。母はことあるごとに、堤防が切っていたらあなたはこの世にいないといわれて育ちました。

私が大学生のときに両親がそろそろ家を持とうという話になりました、桑名に住まいを建てそれ以降桑名にあります。

私は小さい子が好きで憧れの先生もいて、小学校の先生になりたいと漠然と思っていました。

中学のときに音楽の先生に進路について相談したことがあって、そのときに先生は「学校の先生になりたいの？音楽に関わる仕事がしたいの？どっち？」

では、佐藤さんと音楽について教えてください。

私の音楽との出会いは、母と買い物に出掛ける途中の駅前に音楽教室があったんです。そこからオルガンやピアノやいろいろな楽器の音が聞こえてきて、そこの前を通ると私は座り込んで動かなかつたそうで、母も根負けして日が暮れるまで一緒に聞いててくれました。そのうち私はそこで習いたいと言い出し、3歳半でオルガン教室に通いだしました。引っ越しが多くだったので、引っ越しのたびに母は学校と病院と音楽教室を探すことから始めていたそうです。

そして、私はオルガンからピアノに変わりピアノをずっと続けていました。先ほども言いましたが、将来の夢で、中学の先生に相談して、学校の先生になりたいの？音楽の道に進みたいの？どっち？

私の性格からするとあまり厳しくなく、楽しんで音楽をしたい。音楽で生計をたてるとかではなく、自分が趣味として音楽をしていきたいとそう決めました。

そこまで決めてましたが、実際大学は児童教育を選び、卒業してからは、自宅で子どもたちにピアノを教えながら、日進小学校と城南小学校で講師として4年間働きました。

なので、小学から中学のときに漠然と描いていた夢が叶えたんですね。

自宅で子どもたちにピアノを教えて、年に一度自宅の庭で親さんも招いて小さな音楽会という発表会をしてました。

子どもたちには、母の介護が始まるまで18年間教えていました。



## 大正琴との出会いを教えてください。

大学のときに楽譜を買いに行ったときに、大正琴が飾ってありました。タイプライターの形をしていました。

お店の人へ大正琴を見せてほしいと言い見せていただき、お店の方は弾き方を教えてくれました。「ピヤンピヤン」という音色が面白くおもちゃのように感じました。

そのときは、おばあちゃんになつたらやってみようかなという程度でした。

大正琴を始めたのは、最初は母だったんです。

母は近所の婦人会のグループに入っていて、そこで大正琴の教室があって、母はその教室に通っていました。

そしてその教室の先生が体調をくずされ、その先生から母に教室を引き継いでくれないかといわれて今度は母が教室を受け持つようになったのです。母が教室から帰ってきたので「どうだった？」と聞いたら母は「荒城の月をみんなで弾いたんだけど、メロディーが聴こえてこなかったの」と言うではないですか。そして続けて「あんたひま？一緒に教室手伝ってくれない？」と母は言いました。

私は母が言う「荒城の月のメロディーが聴こえてこない」という状況がどういうことなのか確かめたくて、次の教室のときに行きました。演奏を聞いて、これは母一人では無理だな。私も手伝わなければならぬと思いました。

そのとき私は大正琴の免許もなかったのですが、母が自宅で練習していたので、時々大正琴を触っていました。

楽譜もピアノと大正琴の数字譜と同一だったので、そこから母と二人三脚で大正琴の教室が始まりました。

3年ほどして私は講師の免許を取得しました。

平成15年、精義に拠点施設が建ちました。そこに教室を開きたく応募し書類審査を経て、ようやく精義で教室を開くことができた矢先に、母が病気になり、母の介護が始まりました。

平成 15 年 4 月から母と一緒に精義教室を始めました。

そのときに母の病気が見つかりました。母の入退院の繰り返しが続きました。

父はそれまで母に頼りきりだったので、この状況が受け入れられませんでした。父は私に八つ当たりをするようになっていました。

当時を思い出すと、父は認知症だったのかもしれません、私にはそのことがわかりませんでした。

この頃が一番辛かったですね。

昼間は仕事して教室をして、2 人を見て、寝る時間がほとんどない状態でした。

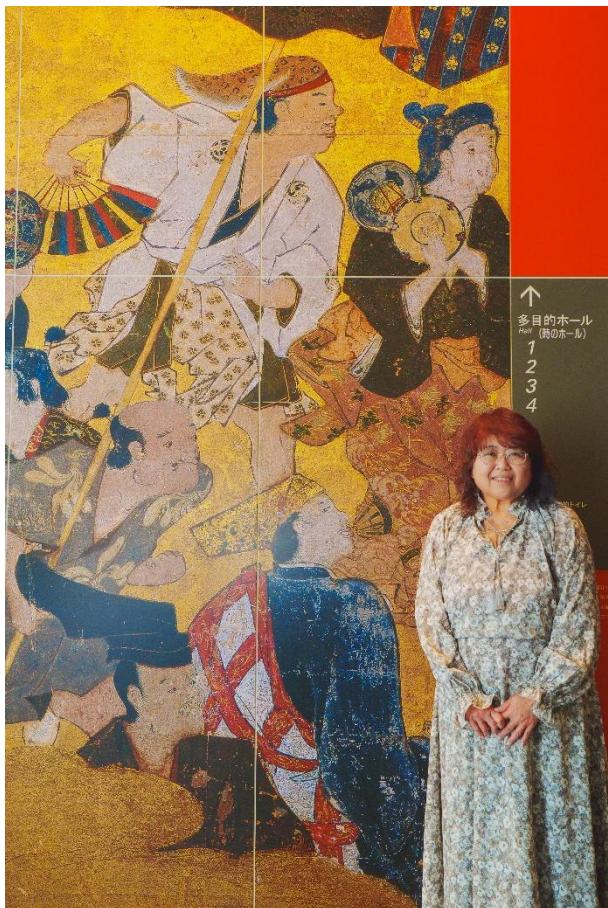
でも母から受け継いだ教室を絶対中断したくなかったです。

周りは私の健康を気遣ってくれました。

専門の方たちに父を任せたら、ようやく自分が楽になったのを覚えています。

そのときに自分は音楽が好きだし、一番得意分野でもあったので、なんとかなるとがむしゃらに頑張ってきました。

自分の得意とする音楽で、パフォーマンスで、こういってはおこがましいですが、恩返しができたらなあと思ったんです。



## 大正琴の魅力について教えてください。

大正琴はいろんな流派がありますが、うちは丸いボタンが並んでいます。基本的にはボタンの上には数字があって、ドレミならば①②③と左の指でボタンを押しながら、右の手でギター演奏のときを使うようなピッグというもので弦を弾いて演奏するわけです。

大正琴の魅力は、これだけで 2 オクターブしかないのと、この音域で大体のメロディーを弾けば一緒に歌えるんです。また、大正琴で演奏できるのはジャンルを問わないことです。童謡、唱歌からフォークソング、映画音楽、演歌はもちろんですね、ニューミュージック、ロックも。

B'z や X JAPAN の曲も演奏します。

大正琴の音色は、ピンピンキヤンキヤンとうるさい音だよねってよく言われます。

いろいろな演奏の仕方があると思いますが、私たちのグループはアンサンブルだけで演奏するんです。

だから混声合唱団に出してもうと 4 種類の琴がミックスされていい感じに聞こえるんです。

演奏には年間 141 箇所行っています。

演奏時間 1 時間戴くと、だいたい 15 曲ぐらい演奏します。ここにいらっしゃる方たちはどんな曲がお好きなのか、お客様の顔を見てから選曲し演奏することもあります。

私の人生、オルガン教室の前で座り込んでいた頃から始まって命が尽きるまで、多分にかしら音楽に携わっていましたという気持ちもあります。

可能ならば、自分が介護施設に行くときは、キーボードとか大正琴とか持っていくから運んでねって家族に言ってあるんです。多分、入所してみんなの前で演奏して生涯を終えたい。手や指が動かなくなっていても、口が動いていたら歌っていたい。そう思っています。

### インタビューを終えて

大正琴は名古屋の大須が発祥地だそうです。大正元年に大須の旅館の息子さんが当時流行っていた二弦琴とヨーロッパ旅行に行かれた際に見かけたタイプライターとかけ合わせてできたのが大正琴といわれています。

大正琴はソプラノ、アルト、テナー、ベースの 4 種類あり、女性の手の大きさでしたらソプラノを、男性でしたらアルトをおすすめしているそうです。アンプに繋ぐといい音がしますよと佐藤さん。センターのスタッフも大正琴の音色に魅了されてゲットしましたが、レッスンに通う日も近い？